

基本方針 1

だれもが身近な地域の問題に 関心を持ち共に支えあう地域づくり



基本施策 1

地域での支えあい、助けあいに向けた 気づき・学びの場と活動の促進

地域住民が生活課題に気づき、学びを深める場を提供するとともに、住民同士のつながりを育み、交流や居場所づくりを推進します。これにより、地域での支えあいや助けあいの意識を醸成し、住民参加による地域活動の活性化に向けた取組を強化していきます。

主な取組 地域出前講座の実施

市民グループ・サークル・学校などの団体の要望により、市の職員が地域に伺い、市の制度・事業の説明・解説や、職員としての経験・知識などを題材に、市民と対話しながら、互いに各種地域健康福祉に関する理解を深めます。

○取組目標

地域福祉に関係する地域出前講座のメニュー数(延べメニュー種類数)

○現状値(R5年度)

39メニュー

○目標値(R12年度)

51メニュー

施策1の推進に向けた共創型オーガナイズアクション

対象	気持ちの変化	行動の変化	成果
市民	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域福祉に関する課題に興味を持つ ・地域出前講座に参加してみようと思う ・自分でできる地域活動をしたいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域出前講座に参加するようになる ・家族や友人に講座内容を伝えたり、関連する情報収集を自ら行う ・自分でできる地域活動に参加するようになる 	フレイル予防の理解促進とフレイル予防を核とした地域づくりや地域活動が活性化し、要介護認定率が下がり、健康寿命が延伸している
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・個人や地域の結び付きの必要性を感じる ・地域でできる福祉活動を企画したいと思う ・地域福祉に関する活動について、もっと多くの人に知ってもらいたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・講座を通じて多様な人々との対話を重ね、地域に必要な活動の周知・啓発をする ・自分たちの地域をより住みよいまちにしていくために地域活動を実践する 	
市	<ul style="list-style-type: none"> ・常に地域の最新の状況を知りたいと思う ・地域福祉の現状を捉えた、市民と地域の理解を得る取組が必要だと感じる ・関係団体や支援機関を含む、地域全体のつながりを意識するようになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動や出前講座等の機会に、地域に赴き、現場の声を直に聞きながら、現状を把握する ・他地域の取組なども参考に、多様な学びや実践支援に向け、講座の種類や回数を増やす ・講座を通じて、つながりづくりを支援する 	

基本施策 2

地域福祉を担う人材の掘り起こしと育成・活躍支援

持続可能な地域福祉づくりに向けて、人材育成に加え、新たな「担い手」や「つなぎ手」を発掘するとともに、育成した人材が活躍できる支援体制を構築します。また、関係者同士の連携を強化し、地域課題の解決に向けた多様なサポーターの育成と確保を進めます。

主な取組 社会参加イベント開催事業

ラコルタ柏(教育福祉会館)を拠点として活用し、地域住民の生活課題の解決に資する市民や各種団体、企業等の活動の支援及び社会参加の促進を図ります。当初はイベントに参加する側だった人が、自分が主役となってイベントを企画・開催し参加者を呼び込み、さらに同様の方が増えるようなサイクルができるよう支援します。

○取組目標

地域活動のコーディネート支援により生まれたプレイヤー数(社会福祉協議会が関与したものに限る)

○目標値(R12年度)

300人/年

施策2の推進に向けた共創型オーガナイズアクション

対象	気持ちの変化	行動の変化	成果
市民	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域のつながりが大切だと感じる ・自分の趣味や得意なことを活かした活動も、地域の健康福祉につながると気づく ・ラコルタの取組などに参加してみようと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントに参加するなど、地域とのつながりを意識するようになる ・地域イベントの案内を身近な人に伝える ・手伝いや運営側として地域活動に取り組むようになる 	地域における人材が発掘され、だれもが活躍できる場が広がり、地域福祉の向上につながる活動をやりがいを持って行う人が増える
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの活動が、地域の課題解決にもつながると思う ・地域活動に関する講座やイベントなどに参加したいと思う ・市や地域活動団体と共に、自分たちの地域に合った地域活動に取り組んでみたいくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラコルタ柏の取組に参加する ・地域課題の解決に向けた活動を企画運営する ・地域活動を担う仲間を増やすための活動の周知や参加案内を促す取組を行う 	
市	<ul style="list-style-type: none"> ・市民、地域団体、企業など地域福祉の人材の掘り起こしの必要性を再認識する ・地域活動に取り組む個人や団体を支援し、活動の拡大や活動者との連携を意識するようになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の地域人材の把握・整理を行う ・社会参加促進のためのイベントを開催する ・地域活動に关心が高い地域の人材を発掘し、個人および団体の活動をサポートする 	

だれもが地域の課題に関心を持ち、主体的に参画し、解決につなげることができるよう、市民が地域課題や地域の活動について知る・学べる機会を増やすとともに、活動に参加意欲がある人の仲間づくりや、地域での活動等に参加・経験できるような仕組みづくりを行います。

基本施策 3

地域における多様な主体との 包括的連携体制の構築と活動支援

地域福祉の充実には、地域で暮らす上でさまざまな課題を抱えている人たちのニーズに対して、より柔軟な支援が求められており、このことが住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられる基盤にもなります。そのためには、行政による公的支援に加え、地域住民やNPO、ボランティア、民間企業などの担い手による公的な制度に基づかないインフォーマルな支援が不可欠です。地域団体、市民、企業等との包括的な連携体制を構築し、地域福祉団体への活動支援や住民主体の地域活動を活性化させるための支援体制を整備します。

主な取組　社会参加イベント開催事業

ラコルタ柏(教育福祉会館)を拠点として活用し、地域住民の生活課題の解決に資する市民や各種団体、企業等の活動の支援及び社会参加を促進します。支援が必要な世帯や個人に対して、福祉領域だけでなく多様な関係機関等が関わりあえる活動を増やせるよう、市民主体の地域活動を支援します。

○取組目標 多様な関係機関や個人が関わった地域活動の数
(社会福祉協議会が関与したものに限る)

○目標値(R12年度) 15 活動／年



日々の生活中での“やってみたい”や“こうなったらしいな”を話す「ワガママ会議」という場に参加しています。気持ちがあるけど一人では実現が難しいことも、それぞれが持っているものを持ち寄り、協力し合うことによって叶えられることがあります。ぜひ一緒に、この場だからこそできる取組を生み出していきましょう!

ワガママ会議メンバー 高野さん

施策3の推進に向けた共創型オーガナイズアクション

対象	気持ちの変化 ♥	行動の変化 💪	成果
市民	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動団体の取組内容に関心を持つ ・地域の活動に面白さを感じ、自分にもできることがあると感じる ・地域における自分の役割や可能性を認識する 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びや交流の機会となるような地域のイベントに参加する ・イベントで知った情報や既存の地域活動について家族や友人に紹介する 	
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の団体や企業同士での連携の必要性を感じ、地域活動に取り組む団体と知り合いたいと思う ・地域の課題の解決のために、関係機関と連携体制をつくりたいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント等に参加して連携の相手を探す ・多様な主体が連携したイベントを企画し、地域団体や企業が市民の活動を後押しできる活動に取り組む 	<p>多様な主体が相互理解と協力関係を深めて活動し、市民の積極的な参加が促進されることで、地域を軸とした課題解決力が向上する</p>
市	<ul style="list-style-type: none"> ・市民、地域団体、企業など、立場や分を越えた支援体制を構築したいと思う ・現状を踏まえた上で地域今後必要な連携の在り方を考え、関係部署で共有しようと思う ・多様な連携の場づくりを進めたいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民、地域団体、企業の支援体制の況を把握し、互恵的な関係の構築を支援する ・地域福祉の関係機関が、他の関係機関との意見交換や情報共有などの交流の機会を設ける 	

基本方針 2

だれもが暮らしの問題を 相談でき解決できる仕組みづくり



基本施策 1

分野や対象にとらわれず 困りごとを丸ごと相談できる体制の充実

地域住民が生活課題に気づき、学びを深める場を提供とともに、住民同士のつながりを育み、交流や居場所づくりを推進します。これにより、地域での支えあいや助けあいの意識を醸成し、住民参加による地域活動の活性化に向けた取組を強化していきます。

主な取組

「福祉の総合相談窓口」の設置

年齢や性別といった属性を問わず、福祉に関わる様々な悩みごとを受け止める「断らない相談窓口」を設置。相談内容に応じた適切な相談支援機関へのつなぎはもとより、一つの相談支援機関での対応が難しい複合化・複雑化した課題等については、複数機関の連携による支援へつなぐとともに、支援の一翼を担います。

○取組目標 福祉の総合相談窓口への新規相談者数(年間総数)

○現状値(R5年度) 904人／年 ○目標値(R12年度) 1,100人／年



相談者に寄り添い、解決策を一緒に考えることで安心した生活が送れるようサポートしています。「ひとりにしない」伴走支援を大切にしながら、相談者と支援や地域をつなぐ架け橋となることを目指します。

福祉の総合相談窓口 小倉相談員

施策1の推進に向けた共創型オーガナイズアクション			
対象	気持ちの変化 ❤	行動の変化 🧑	成果
市民	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉に関する相談先としてどのような窓口があるのか知りたいと思う ・日常生活の中で抱えている不安や課題を相談してみようと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・市のホームページなどで地域生活課や相談できる場所(福祉関係機関)を調べる ・福祉関係機関に、気軽に相談するようになる 	だれもが躊躇なく相談できるワンストップの相談体制が構築され、不安や悩みを抱えている人が、解消に向けて、さまざまな支援機関とつながることでできている。また、相談内容に応じて関係機関が横のつながりを構築し、チームとして機能するようになる
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている人に気付き、相談支援につないであげたいと思う ・地域で相談ニーズのある人を早期発見できるようにしたいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活課題や様々な福祉相談窓口(福祉関係機関)について調べるようになる ・地域全体で相談ニーズのある人を気にかけるようになる ・地域でだれもが気軽に相談できる場所を作る 	
市	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から各関係者と情報交換や連携を深めることを意識しようと思う ・適切な関係先につなげられるように、相談支援機関同士の連携体制を強化したいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援機関同士が知り合う場を提供する ・断らない相談窓口として機能できるように、相談員を適正に配置するとともに、関係課と連携し機能する相談体制を作る 	

分野や対象にとらわれず、だれもが暮らしの問題について気軽に相談でき、多様な生活課題に応じて的確な支援が受けられ、解決につなげられる仕組みづくりを行います。また、地域の資源を効果的につなげられるよう、市民や地域、福祉関係機関との積極的な対話の場づくりを行いながら、行政内外との連携を図り、相談体制を拡充します。

基本施策 2

課題の早期発見と切れ目のないサポート体制の構築

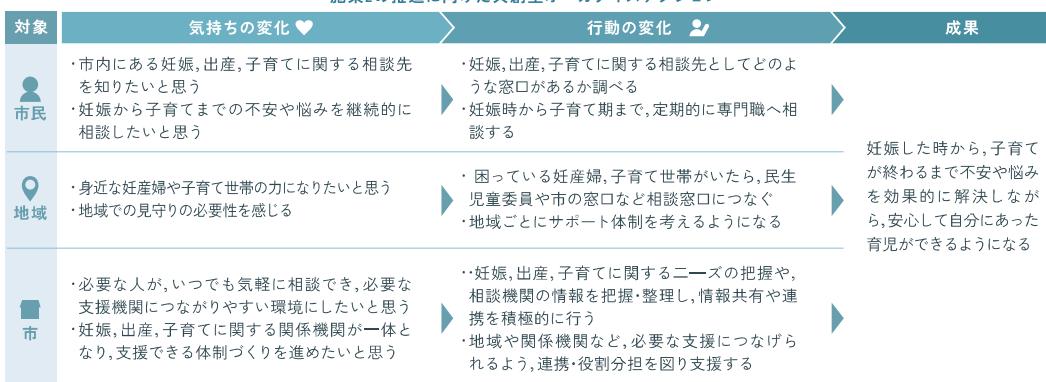
地域と連携した見守り活動により、地域生活課題や市民の個別課題を発見・把握する仕組みづくりを行うとともに、府内連携会議などを通じた行政内の連携体制を構築します。これにより、福祉サービスの充実と、切れ目のない支援体制を構築します。

主な取組 妊婦等包括相談支援事業

全ての妊産婦や子育て世帯を対象に、妊娠期から子育て期まで一体的で切れ目ない相談支援を実施するため、妊娠届出時などに専門職が面談して、必要な情報提供や相談対応を行います。また、関係機関と連携してニーズに応じた必要な支援につなげる伴走型の相談支援を行います。

- 取組目標 伴走型相談支援による面談数
- 現状値(R5年度) 5928回
- 目標値(R12年度) 9000回

施策2の推進に向けた共創型オーガナイズアクション



基本施策 3

必要な情報を届けるための対話の場づくりと情報発信の充実

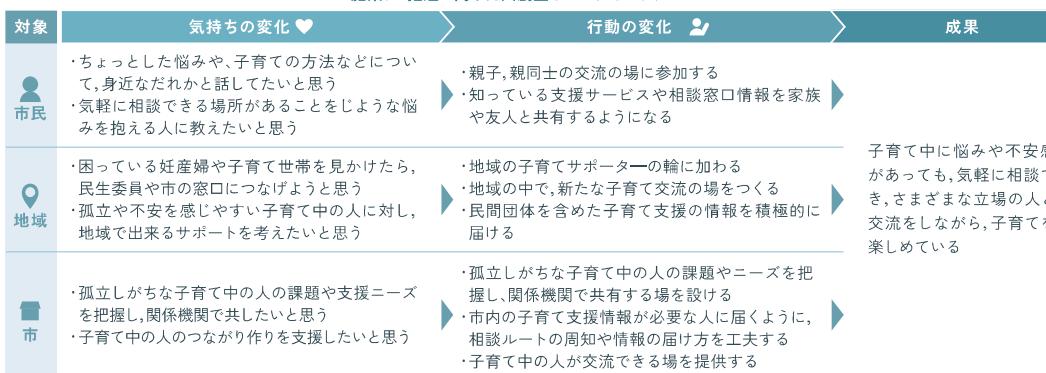
市民の現状やニーズを適切に把握しながら、必要な情報が適切に届くようにするために、行政からの一方向だけの情報発信だけでなく、地域福祉のプラットフォームとして、市民との積極的な対話の場づくりを行うとともに、関係各部署が連携しながら情報発信の充実を図ります。

主な取組 地域子育て支援拠点事業(親子、親同士の交流の場の創設)

就学前の乳幼児と保護者及び妊婦が、気軽に利用できる場所を開設。親子で楽しく遊んだり、他の親子と交流して友達をつくり、情報交換をしたりすることができる、ゆるやかな交流の場を提供します。また、子育てに関する相談や、子育て情報の共有、子育てに役立つ育児講座を実施することで、育児に関する悩みの軽減を図ります。

- 取組目標 地域子育て支援拠点(支援センター含む)の利用者数
- 現状値(R5年度) 129,651人／年
- 目標値(R12年度) 135,482人／年

施策3の推進に向けた共創型オーガナイズアクション



基本方針 3

だれもが健康で いきいきと暮らせる地域づくり



基本施策 1

地域を核とした心身の健康づくりの促進

ライフステージや個人の心身の状態に合わせながら市民の主体的な健康づくりを推進します。また、地域を核に社会参加や交流を促進し、身体的な健康に加え、心理面や人とのつながりなどの社会面での健康づくりを促進できるための環境づくりを行います。

主な取組 フレイル※予防の推進

フレイルチェックやフレイル予防・健康づくり出前講座などを活用してフレイル予防の普及・啓発を行うとともに、地域包括支援センター等の関連機関と連携し、フレイル予防に重要な、栄養(食・口腔)・運動・社会参加の3つの柱を意識した健康寿命延伸の取組を推進します。

- 取組目標 かしわ健康アプリを登録してフレイル予防に取り組む65歳以上の市民の数
- 目標値(R12年度) 24,000人



Interview

フレイルサポーターとして、地域でのフレイルチェックを実施する際は、参加者とのちょっとしたコミュニケーションを大切にしています。フレイルチェックの場合は、健康を測定するだけでなく、参加者同士、サポーター同士の交流の機会でもあります。フレイル予防への関心を持つ時に遅いも早いもありません。何歳からでもいいので、まずは一回のぞいてみてください!

フレイル予防サポーター 山口さん



対象	気持ちの変化 ♥	行動の変化 💬	成果
市民	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の健康維持に取り組みたいと思う ・将来に備えてフレイル予防の情報や具体的な実践方法を学びたいと思う ・フレイル予防活動に参加したいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の健康習慣の振り返りや、健康状態を把握することを意識的に行うになる ・フレイル予防など、健康増進につなげるために、生活習慣の見直しや地域活動に参加する 	フレイル予防の理解促進とフレイル予防を核とした地域づくりや地域活動が活性化し、要介護認定率が下がり、健康寿命が延伸している
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・フレイル予防等の地域活動への参加を促す活動をしたいと思う ・生活環境や心身状態に合わせ、地域でできる多様な社会参加活動に取り組みたいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でフレイル予防の普及啓発活動を行う ・地域の中でできる社会参加活動を増やす 	
市	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康を向上させるため、フレイル予防などの予防活動を重視していく必要性を、関係者により一層理解ほしいと思う ・心身の健康における市の現状を把握するためのデータや、他地域の活動など、必要な情報を把握したいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・フレイル活動など予防活動に関して、市の現状を把握するデータや、他地域の活動など、必要な情報を集める ・市の現状や課題をふまえ、フレイル予防を中心とした予防活動を目的とした講座を関係各部署と連携しながら企てていく 	

基本施策 2

子どもの健やかな育ちを保障し応援する環境構築

子どもと保護者が心身の健康を維持・増進できるように、切れ目のないきめ細かな支援を充実していきます。また、地域における子どもの居場所づくりを拡充するとともに、地域内での相互援助活動の活性化を図ります。

主な取組 かしわファミリーサポートセンター住民参加型子育て支援事業

- 取組目標 協会会員・両方会員数
- 現状値(R5年度) 498人／年 ○目標値(R12年度) 547人／年

対象	気持ちの変化 ♥	行動の変化 💬	成果
市民	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援に関する情報を知りたいと思う ・子育て支援のサービスを使ってみようと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援に関する情報を主体的に収集するようになる ・自分に合った子育て支援のサービスを選択し、利用登録などをする 	子どもを中心として、子育てに多くの人が関わり、親の不安や負担が軽減され、親も子も不安なく安心して暮らせる地域づくりが進んでいる
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で子育てを支える人材として関わみたいと思う ・子育て中のニーズなどを踏まえた上で、地域が一体となって、子どもを育てる取組をしていくこうと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で子育てを支える人材として、サポーターなどの活動に参画する ・地域の中で住民同士の連携を深め、協力者を増やしていく 	
市	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で子育て中の人のニーズや、現状のサービスにおける課題を把握し理しようと思う ・支援の充実に向け、支援内容や体制、人材の確保について関係機関と継続的な検討をしていくこうと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民に事業を周知するための資料やチラシの作成、イベントを開催する ・支援の充実に向け、支援内容や体制整備、人材の確保について関係機関と継続的な検討の機会を設ける 	

子どもから高齢者まで、だれもが住み慣れた地域でいきいきと暮らせるよう、予防の視点をより重視した健康づくりを推進すると同時に、「受け手」「支え手」といった役割を固定することなく、その人に合った形で活躍できる場づくりを行いながら、地域での健康で自立した生活を支援していきます。

基本施策 3

保健・医療・福祉及び生活関連分野の充実と連携

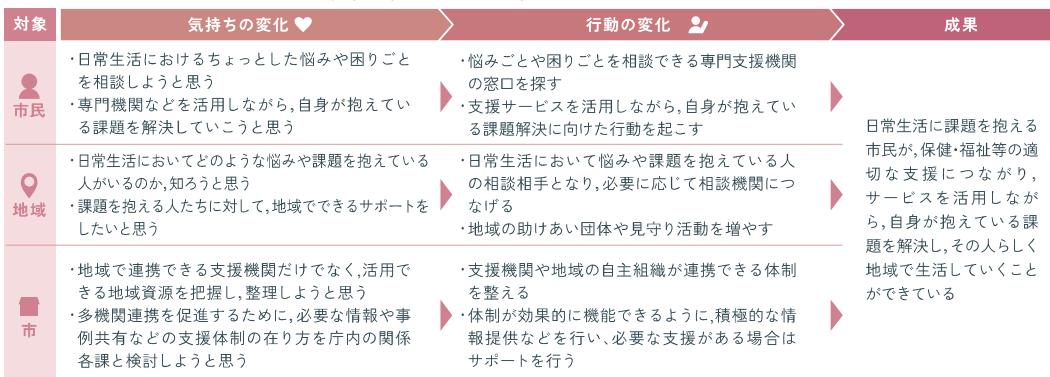
医療・介護・住まい・生活支援など、医療や福祉の専門職と地域との連携による支援体制を強化します。また、健康面で支援が必要な地域住民の早期発見や見守り活動の充実などにより、できる限り地域での自立した生活を支援するための環境づくりを行います。

主な取組 多機関協働事業

複雑化・複合化した課題を持った世帯等に対し、各支援機関が連携して支援を進めます。また、複数のかしまる小会議の内容を踏まえ、かしまる中会議を市内4エリア(北部、中央、南部、東部)にて開催し、各エリア特有の課題を見出し支援者間で共有することで支援力の強化及び関係の強化を図ります。また、市域全体のかしまる大会議を開催し、行政間でも共有します。

- 取組目標 かしまる小会議の開催回数
- 現状値(R5年度) 11回／年
- 目標値(R12年度) 24回／年

施策3の推進に向けた共創型オーガナイズアクション



基本施策 4

あらゆる人が役割を持ち自分らしく活躍できる環境の構築

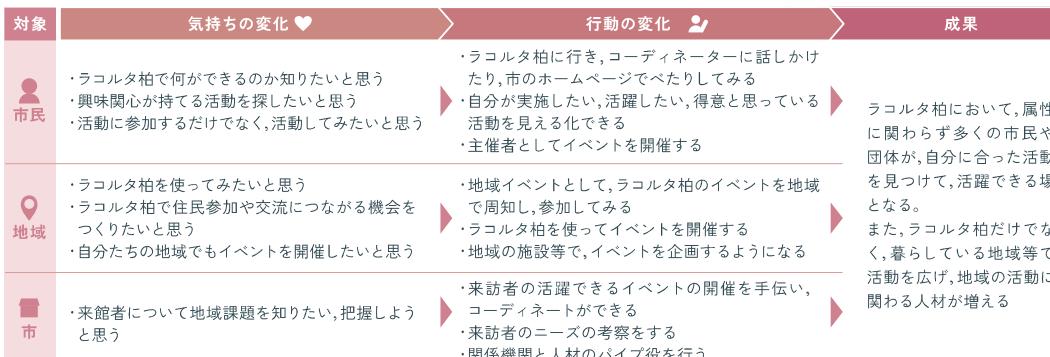
子どもから高齢者まで、また社会的弱者も含め、あらゆる人がその人に合った形で活躍できる環境づくりをすすめます。また、支え・支えられる関係が循環しながら、自分らしく活躍できる環境づくりを進めます。

主な取組 ラコルタ柏運営体制支援コーディネーター事業

「誰もが集まるみんながつながる地域に広がる」をコンセプトとしたラコルタ柏(柏市教育福祉会館)において、地域活動による地域課題の解決を目指した館となるよう、属性や世代を超えた様々な人と関わりあえる場の提供やマッチングを行います。また、来館者のニーズや地域課題の情報収集を行い、居場所づくりのコーディネートや担い手づくりを行います。

- 取組目標 市民等と協働して実施した事業の件数
- 目標値(R12年度) ○〇件

施策4の推進に向けた共創型オーガナイズアクション



基本方針 4

だれもが安全・安心に 暮らせる地域づくり



基本施策 1

防災対策と災害時の支援体制の充実

災害時に備えた平時からの地域連携を強化とともに、災害発生時において要配慮者の安全・安心が確保できるように、避難支援体制の構築やボランティアコーディネート機能の充実を図ります。また、被災後も早期に的確な復興ができよう、事前の対策を講じていきます。

主な取組 個別避難計画の策定

災害に備え、避難行動要支援者ごとの避難計画を作成する事業です。ケアマネジャー等の福祉専門職へ市が委託して作成するほか、本人・家族が自ら作成する計画づくりの支援を行います。

○取組目標 個別避難計画の対象者に対して働きかけを行った割合

○現状値(R5年度) 0.5% ○目標値(R12年度) 100%



要支援者の方と共に計画を作ることで、災害が起る自身の場面をイメージすることができ、避難の流れを実感できます。また、自分の思いを共有できる早い時期に作成することが重要だと感じました。地域生活は常に「おたがいさま」です。お互いの少しづつの力で、大きな助け合いになればいいですね。

北部地域包括支援センター 山本敏子センター長



対象	気持ちの変化	行動の変化	成果
市民	<ul style="list-style-type: none"> 普段から災害を意識し、災害を自分ごとに思う 平常時においても災害に備え、防災用品や避難場所、避難経路などを確認しておこうと思う 	<ul style="list-style-type: none"> 災害対策に関する情報を収集したり、勉強会に参加するようになる 日頃から災害に対する備えを行い、自動的に避難計画を作成する 	市民の災害への意識が高まり、日頃からの備えが強化される中で、多様な立場の人への理解と備えの必要性を考え、災害時に誰もが適切な行動を取れる状態になっている
地域	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に支援が必要な人の状況などについて関心を持つようになる 普段からの住民同士のつながりが大切だと思う 地域で助け合える環境をつくりたいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> 地域内に避難計画や訓練、防災に対する勉強会を開催する 地域にはさまざまな立場の人があることを理解し、日頃から「見守り」や「声かけ」をするようになる 避難行動要支援者も含め、地域単位での避難方法を検討し、地域内で共有する 	
市	<ul style="list-style-type: none"> 災害に備え、住民同士のつながりの状況や、支援が必要な人の情報などを日頃から把握・整理できる体制を関係機関と進めていく 災害を自分ごと捉えてもらうために、情報発信の工夫が必要だと思う 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と定期的に情報共有をする 市民同士のつながりで避難行動要支援者への支援ができないケースを把握し、対策がとれるようになる 広報啓発や学びの機会の充実を図る 	

基本施策 2

地域安全活動の充実

住民の防犯意識の向上に向けた普及啓発や、防犯対策を意識した地域環境の整備を進めます。また、地域と連携し、日頃から防犯の視点を持って見守り活動を行うことで、安全・安心な地域づくりを進めます。

主な取組 地域での防犯対策等の推進

地域の防犯活動を推進する「防犯指導員」と共に、地域の防犯パトロールや子どもの見守り活動、防犯情報の広報啓発活動などに取り組み、地域住民の防犯意識を高めます。また、夜間における犯罪の発生防止及び通行の安全を図ることを目的とし、町会・自治会・区等と連携しながら、安全・安心な地域となるよう防犯灯の設置及び維持管理を進めます。

○取組目標 防犯指導員の登録者数
○現状値(R5年度) 781人／年
○目標値(R12年度) 830人／年

対象	気持ちの変化	行動の変化	成果
市民	<ul style="list-style-type: none"> 消費者トラブルや事故、犯罪被害などを自分ごとに思う 隣近所への声掛けや、町会の防犯活動に参加しようと思う 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から自分でできる防犯対策を行う 日頃から隣近所へ声掛けをしたり、町会の防犯活動などに参加したりする 	市民の防犯への意識が高まるとともに、防犯指導員を中心に、互いに声掛けなどを行いながら防犯活動が積極的に行われることで、地域住民が不安なく安心して暮らすことができている
地域	<ul style="list-style-type: none"> 地域の犯罪状況や防犯対策の取組などの情報に关心を持つ 地域の防犯パトロールや子どもの見守り活動、防犯情報の広報啓発活動に積極的に取り組もうと思う 	<ul style="list-style-type: none"> 地域内の防犯・安全面で気になることがあれば市などに情報提供する 日頃から町会内で声を掛け合うようになる 町会等の防犯活動を担う防犯指導員や協力する地域住民が増える 	
市	<ul style="list-style-type: none"> 市民一人ひとりの防犯意識を高めたいと思う 町会と連携しながら必要な支援や役割分担を整理しようと思う 防犯対策などに役立つ情報を収集し、市民や地域が役立てられるようにしようと思う 	<ul style="list-style-type: none"> 市民や町会に役立つような情報提供や啓発活動を行う 町会の取り組み状況や、ニーズ・課題を把握しつつ、情報交換の機会を増やす 町会活動を支援するため、財政面での支援を整備する 	

地域特性や人々のつながりの特性を踏まえ、住民同士の支えあいや地域コミュニティの構築を支援し、住民の意識の醸成を図りながら地域での防災や災害時の対策を進めます。また、虐待や成年後見制度等の権利擁護に関する理解を促進し、だれもが尊重される地域づくりと安全・安心に暮らせるための環境づくりを進めます。

基本施策 3

居住・就労・移動支援の充実

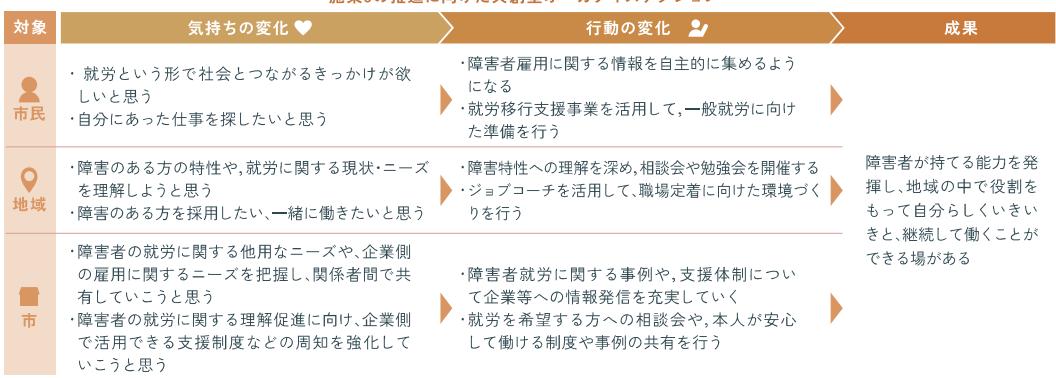
一人ひとりの特性や状況を考慮し、住宅確保要配慮者41への「住まい」の支援や、就労の機会創出及び移動手段の確保など、自立に向けた支援体制の充実を図ります。

主な取組 障害者的一般就労及び職場定着の促進

障害者等の多様なニーズに対応するため、障害者就労の関係機関の連携を通じて障害者雇用を促進するとともに、ジョブコーチ派遣事業等を活用し、職場定着支援の強化に取り組みます。併せて、相談会や研修会の開催を通じて、企業における障害理解を促進します。

○取組目標	就労移行支援事業等を通じて一般就労に移行した人数
○現状値(R5年度)	69人／年
○目標値(R12年度)	97回／年

施策3の推進に向けた共創型オーガナイズアクション



基本施策 4

権利擁護と虐待防止の推進

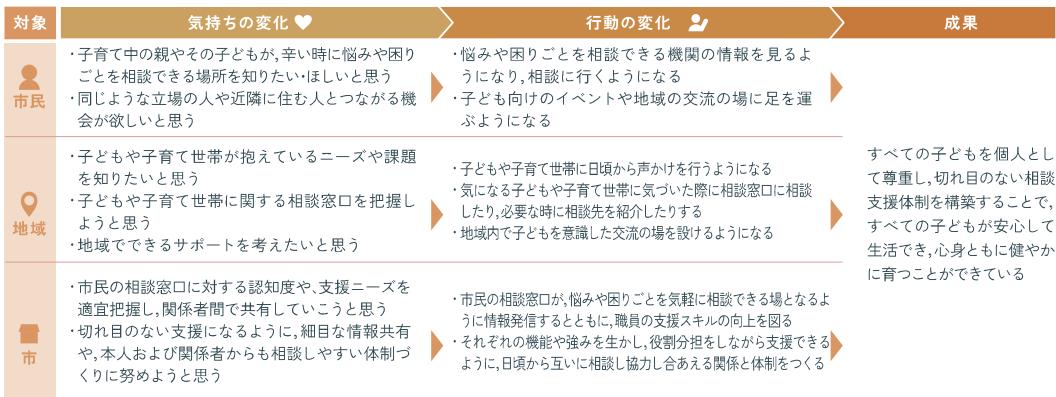
住民や関係機関の虐待防止・権利擁護についての理解を促進し、地域での見守りや支援体制を強化することで、虐待防止対策及び虐待の早期発見と迅速な対応を推進します。また、権利擁護支援の理解促進と必要な人が制度を利用できる支援体制づくりを行い、利用を促進します。

主な取組 こども・若者相談支援センターの設置

子どもや若者、子育て家庭への支援の拠点として、児童相談所、こども家庭センター（児童福祉+母子保健）、若者支援等の機能を含んだ複合施設である「(仮称)柏市こども・若者相談センター」を整備し、子どもを取り巻く複合的な問題に対し、子どもの最善の利益を優先した支援に取り組みます。

○取組目標	虐待相談対応件数
○現状値(R4年度)	1077件／年
○目標値(R12年度)	1360件／年

施策4の推進に向けた共創型オーガナイズアクション



施策の進捗評価

施策の評価にあたっては、「基本施策別の基本施策と取組」に記載している「取組目標」の数値評価に加えて、市民の福祉観、地域での関わりなどの実態を把握する市民アンケート調査を行い、進捗・評価を行っていきます

基本方針1 だれもが身近な地域の問題に関心を持ち共に支えあう地域づくり

	基本施策	評価項目	基準値	方向性
1	地域での支えあい、助けあいに向けた気づき・学びの場と活動の促進	① 地域福祉に関するボランティアや市民活動などに取り組んでいるか	① ボランティアに取り組んだことがある 30.2%	↗
2	地域福祉を担う人材の掘り起こしと育成・活躍支援	② 地域での支えあいや助けあいに関心を持っているか	② 支えあいや助けあいに関心がある 47.5% (令和5年度時点)	↗
3	地域における多様な主体との包括的連携体制の構築と活動支援			

基本方針2 だれもが暮らしの問題を相談でき解決できる地域づくり

	基本施策	評価項目	基準値	方向性
1	分野や対象にとらわれず困りごとを丸ごと相談できる体制の充実	① 柏市の健康や福祉に関する情報は、入手しやすいと思うか	① 入手しやすいと思う 38.5%	↗
2	課題の早期発見と切れ目のないサポート体制の構築	② 健康や福祉に関することで困ったときに、相談できる人がいるか	② 相談できる人がいない 5.5% (令和5年度時点)	↘
3	必要な情報を届けるための対話の場づくりと情報発信の充実			

基本方針3 だれもが健康でいきいきと暮らせる地域づくり

	基本施策	評価項目	基準値	方向性
1	地域を核とした心身の健康づくりの促進	① 健康だと感じているか	① 健康だと思う 76.0%	↗
2	子どもの健やかな育ちを保障し応援する環境構築	② 住んでいる地域は障害者や高齢者、子育てをしている人にとって安心して生活できる環境だとと思うか	② 安心して生活できる環境だと思う 64.7% (令和5年度時点)	↗
3	保健・医療・福祉及び生活関連分野の充実と連携			
4	あらゆる人が役割を持ち自分らしく活躍できる環境の構築			

基本方針4 だれもが安全・安心に暮らせる地域づくり

	基本施策	評価項目	基準値	方向性
1	防災対策と災害時の支援体制の充実	① 地域の中で安心して生活できていると感じるか	① 安心して生活できていると感じている 81.6%	↗
2	地域安全活動の充実	② 災害が起きた時に支援をしてくれる人はいるか	② 支援してくれる人はいない 5.1% (令和5年度時点)	↘
3	居住・就労・移動支援の充実			
4	権利擁護と虐待防止の推進			

柏市再犯防止推進計画

計画の目的（方向性）

犯罪をした人の多くは、安定した仕事や住居の確保が困難であることや、年齢や障害、家族との関係などさまざまな課題を抱えています。これらの課題に対して、福祉、医療、教育、労働などの多分野での連携を強化し、個別のニーズに応じて支援します。また、犯罪をした人が再犯せずに社会復帰するためには、地域の理解と協力が不可欠です。そのため、地域住民や企業、関係機関への啓発活動を進め、社会全体での再犯防止への理解を深め、取組を強化します。

計画の体系（重点方針）

重点方針1：社会における居場所の確保

就労支援、住居の確保を支援し、生活基盤を整えることで社会復帰を促進します。

重点方針2：保健医療・福祉サービスの利用の促進等

福祉サービスを必要とする人が適切な支援を受けられるように支援します。

重点方針3：非行の防止・学校等と連携した就学支援の実施

飛行の未然防止や学校等との連携した立ち直り支援を行い、青少年の健全な育成を支援します。

重点方針4：犯罪をした者等の特性に応じた効果的な指導の実施等

罪種ごとに認められる特徴や、犯罪の背景にある事情を把握し、個々に応じた効果的な支援を行います。

重点方針5：民間協力者の活動の促進等

犯罪をした人等の社会復帰支援は、数多くの民間協力者の活動に支えられています。民間協力者の活動の支援を行うとともに、より多くの民間協力者が再犯防止の取組に参画してもらえるよう、働きかけを行います。

校正保護団体、取組の紹介

●保護司及び保護司会

保護司は、犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える民間のボランティアです。保護司法に基づき、法務大臣から委嘱された非常勤の国家公務員ですが、給与は支給されません。保護司は、保護観察官と協働して保護観察にあたるほか、犯罪や非行をした人が刑事施設や少年院から社会復帰を果たしたとき、更生を促し、スムーズに社会生活を営めるよう、釈放後の住居や就業先などの帰住環境の調整や相談を行っています。柏地区保護司会は柏市・我孫子市・流山市の3市から構成されており、令和6年4月1日時点で92名の保護司が活躍しています。

●更生保護女性会

地域社会の犯罪・非行の未然防止のための啓発活動を行うとともに、青少年の健全な育成を助け、犯罪をした人や非行のある少年の改善更生に協力することを目的とするボランティア団体です。東葛飾地区更生保護女性会は柏市・我孫子市・流山市の3市から構成されており、令和6年4月1日時点で68名の会員が活躍しています。

●協力雇用主会

協力雇用主は、犯罪をした者等の自立及び社会復帰に協力することを目的として、犯罪をした者等を雇用し、又は雇用しようとする民間の事業主です。柏市では60社の登録があります。(令和6年4月1日時点)柏地区更生保護協力雇用主会は柏市・我孫子市・流山市の3市から構成されています。

●社会を明るくする運動

全ての国民が、犯罪・非行の防止と犯罪・非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動です。本市では、この運動の強調月間である7月に広報啓発を行っています。また、その他のイベントや小中学生を対象とした作文コンテスト、保育園を対象としたぬりえの展示会を行っています。

①

柏市における地域福祉の考え方
社会

②

計画の全体像

③

基本方針別
施策と取組

④

その他関連計画

⑤

用語集

柏市重層的支援体制整備事業実施計画

計画策定の背景

令和3年4月に改正された社会福祉法に基づく「重層的支援体制整備事業」が創設され、本市では令和4年度から開始しています。この事業は、「つながり続ける支援体制の構築」をコンセプトに、すべての地域住民を対象とし、「属性を問わない相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」の3つの支援を一体的に実施し、人々の生活そのものや生活を送る中で直面する困難・生きづらさの多様性・複雑性に応えるものです。

そのためには、市民や関係機関、地域の多様なステークホルダー間で事業の理念や目指すべき方向性を共有し、一人ひとりが地域の一員としての役割を再認識することが不可欠です。また、関係者間の意識の醸成は、単なる協力関係の構築を超えて、地域全体が支援の主体となり、問題を共に解決する「共創」の姿勢を育むことが重要です。このような取組を通じて、柏市の「チーム支援」を築き、地域全体が持続可能で活力ある未来に向けて一丸となって取り組む基盤を確立するため、柏市重層的支援体制整備事業実施計画を策定します。

柏市における重層的支援体制整備事業の方向性

生活課題が多様化する世帯などが全国的に増加する中、本市では令和3年1月に、相談支援業務をワンストップで行える相談窓口として、「福祉の総合相談窓口」を設置しました。切れ目のない相談支援に取り組むとともに、困難な生活課題にも対応できる体制を整備し、令和4年度から重層的支援体制整備事業を開始しました。

本市では、「重層的支援」を以下のように捉えています。

i. 生活課題を含む「重層的」な課題

複合・複雑化した生活課題があるため、既存制度(高齢者・障害者・子どもなど)で考えるだけではなく、多面的に対応する。

ii. 多様な人が関わりあう「重層的」な機関

全てを兼ね備えた支援機関はないため、ひとつの支援機関で抱えることなく、様々な機関(市民や地域も含めて)連携・協力できる体制で役割分担する。

iii. 相談(入口)から地域生活(出口)までの「重層的」な支援

生活課題の相談だけに留まらず、必要な支援機関につなげ、それぞれに寄り添った伴走支援までを一連の流れで実施する。



単語	意味